

# 牧羊ひろば



鹿児島めぐみ教会 教会学校

## ●継続は力! —これまでの歩み—

主の聖名を賛美致します。

教団の二十一世紀宣教プロジェクトの中で、一九九七年4月から、鹿児島での開拓が始められ、今年で18年が経ちました。開拓当初から、何とか教会学校を開きたいとの祈りの中、その年の9月に一〇〇〇枚の教会学校案内を作り、小学校前で配り始めました。配布した次の日曜日、「神様、子どもたちを送って下さい」と祈り待っていた時、教会のビルの階段を駆け上がってくる足音が聞こえました。見ると、教会案内を手にした一人の男の子でした。「J君」。彼は小学校3年生で、教会のすぐ近くに住んでいました。とても明るくおしゃべり上手な男の子でした(神様感謝いたします!)。その日、たった一人ですが、大切な一人との、初めての教会学校が行われました。お母さんにもご挨拶をしたいと思います、J君を

送っていく途中、「先生、ばく危機なんだ」と話しかけてきたのです。「え、何の危機?」「お父さんとお母さん、もうすぐ離婚するんだ」…。私は一瞬、何と声を掛けていいかわかりませんでしたが、神様が良い答えを導いて下さいました。「私もお父さんがいなかったんだ!」。私の言葉を聞くとJ君は「えー!」という顔で私を見上げました。その顔は、「この大人は僕の気持ち分かってくれそう」と安心したような顔でした(私自身、父が家を出ていくという、試練の中を通らされたことが、離婚家庭や様々な家庭環境の子どもたちの心に寄り添えるため



8月生まれお誕生日会

だったのかもしれないと、J君との出会いを通して気づかされました。

前置きが長くなりましたが、このJ君が、この日から雨の日も灰の日も、毎週教会学校に来てくれるようになり、友人や、お母さんも教会に誘ってくれるようになりました。当時、土曜日に公園伝道をしていましたが、それにも必ず来てくれました。

J君にどれほど励まされていたことでしょうか。しかしその後、J君のご両親は離婚され、彼が6年生になった二〇〇〇年に、お母さんの故郷、沖縄に引越していききました。一人の男の子



2004年教会学校クリスマス

から始まった教会学校は主の恵みの中、少しずつ人数も増えていきました。

二〇〇五年の平均出席は、小学科9人、中学生科5人になっています。クリスチャンホームはまだなかった中で、みんな未信者の家庭から送られてきた子どもたちでした。教会学校プログラムは、9時～9時25分：礼拝、9時30分～9時40分：分級（子どもたちと会話し祈る時間）、9時45分～10時：ゲーム、10時～10時15分：おやつタイムでした。その他毎月1回スペシャルサンデーとしてお誕生日会やホットケーキ作り、お好み焼き、たこ焼き、朝食会（朝食べてこない子どもたちのため、ご飯・お味噌汁・卵焼き・ウィンナー等準備）をしていました（現在もプログラム・スペシャルサンデーはほぼ同じです）。一時期はクリスマス劇が出来る子どもたちが来ていましたが、二〇〇八年頃から少しずつ人数が減ってきました。小学生の子どもたちが中学生になり、部活などで来なくなりしました。二〇〇九年の小学科平均人数は1人、中学生科2人となっています。この頃、「今朝は誰かきてくれるのかな」と教師たち4人は、祈りながら子どもたちを待つことになりました。誰も来ない教会学校で

したが、「いつ子どもが来ても良いように、準備しておこうね。誰も来ない日は、この時を祈りの時間にしようね」と会話していたことを思い出します。私自身も朝早く準備して来られる教会学校教師の皆さんの事を気遣いながらも、CSの働きを絶対にやめてはいけないことだけ、何度も自分に言い聞かせました。神学校時代、教えに来て下さっていたある先生がいつも「継続は力です」と語っておられたのを思い出していました。続けることに意味があるとその大切なメッセージを心に留め今日まで来ています。



1年生

●クリスマスチャンホームの子どもたち  
二〇〇六年、ビルの2階の教会で結婚式が挙げられました。CS教師だった兄弟と熊本からお嫁に来て下さった姉妹♥(彼女もCS教師でした)、クリスマスチャンホームの誕生でした。2人に子どもが与えられ、最近の教会学校はクリスマスチャン家庭の子どもたちが5名と未信者の家庭から送られてくる小学生、中学生が数名います。時が経ち、主の恵みの中、クリスマスチャンホームの子どもたちが教会学校に出席し、成長していく姿を見られるのは本当に嬉しいことです。



教会学校キャンプ

## ●最近の取り組み

二〇一五年に新しい会堂に引越しました。大きい通りからも十字架がよく見え、公園も近くで、緑もあり、小さなお庭もあります。この場所を拠点に、広く子どもたちを誘っていきます。今年度から、CSのメッ

セージについて新しい試みを始めています。聖書の話しを、自分と無関係な話としてではなく、どうしたら子どもにとって身近な話に出来るのか、また深く理解できるのかとの願いからです。毎週違うメッセージをすることをやめて一か月、一つのお話を4週（5週）することになりました。1週目は聖書紙芝居をそのまま、伝えたい



主が与えて下さった会堂

メッセージも加えて読む。2週目、3週目は同じ内容の紙芝居を見ながら、子どもたちいろいろな質問をして、一緒に考える時を持ちます（例えば「放蕩息子」なら、「お父さんからお金をもらった弟息子が遠い外国に行った時、お父さんはどんな気持ちだったかな?」「お金が無くなって、お腹もすいて、弟息子はどうしようと思ったかな?」などです）。3週目に、紙芝居の絵の5コマ位を縮小コピーして、子どもたちに渡します（子どもは自宅で、自分で練習します）。第4週目、最後の週は、子どもたちが紙芝居を見ながらお話しをします。小1が2人、5歳、3歳の子どもは時には手伝いをもらいながら、一人で話せます。4月から6つのお話しをしてきましたが、回を重ねる毎に、上手になっています。子どもたち一人一人の心に深く、聖書の話し、キリストの心が残っていくことを願い、しばらくこの形で教会学校をしていきたいと思っています。

もう一つの取り組みは、牧師が以前学んでいたモンテッソーリ教育を用い、火曜日の午前中に子育て親子クラブのような集会（グレイススクール）を持ちたいと思っています。その準備も兼ねて、一般の礼拝中の保育時間

に子どもたちも教具を使ったり、工作をしたり、楽しく過ごしています。地域の子どもたちもたくさん教会にきてくれることを祈りながら、教会学校の働きについて、模索し、諦めることなく、格闘していきたいと思っています。

最後に、これまでの教会学校の働きの中で、未信者の家庭の子どもさんが2人受洗しています（今は青年になり、教会を手伝ってくれています）。最初に教会に来たJ君は27歳になり、この秋結婚する予定で、司式を頼まれました。小さかった子どもたちが、神様の愛の中大きく成長していることは本当に嬉しいです。報われること



お話しをするA君

の少ない働きですが、継続していきたいと思っています。

（白尾真理子）



新会堂初めての礼拝後みんなです！